NIE実践報告

1．タイトル：☆社会連帯の自覚を深め、よりよい社会を作ろう

2．学校名

宮城県仙台市立五城中学校

3．実践者名（代表者名）

門前真紀子

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳　37人

6．単元（本時の学習課題）名

ともに生きる社会　4-（3）

7．目標(狙い)

社会連帯の自覚を深め、互いにいたわりあい助け合う、よりよい社会をつくろうとする実践意欲を培う。

8．評価の視点

新聞記事を資料とし、「迷惑とは何か」ということについて考え、理解を深めた発言や記述がみられるか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

暁教育図書　中学生の道徳２　８迷惑とは何ぞ「ナナカマドの街から」（1時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「公共の迷惑」に関する記事を探して、その記事についての意見を書く。（１時間）
②意図的に取り上げた新聞記事と、偽の新聞記事を取り上げ、それぞれ賛成意見と反対意見を出す。偽の新聞記事から、批判的な新聞の読み方を学ぶ。
③筆者の求める人間像について考える。

（留意点）
・新聞投稿の切り抜きから、自分の意見を持たせる。
・偽の新聞記事に対して、批判的な読み方をさせる。
・他の人の話を意見を聞き、自分の意見と比較して、感想を書かせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「公共の迷惑」に関する記事、という限定した課題を出したところ、ゴミ問題やマナーに関する記事や投稿記事を生徒が集めた。自分たちの身近なこととして、とらえられた。

12．成果と課題

道徳に新聞記事を活用したことで、題材をより身近なこととととらえ、深く考えることができた。偽の投稿記事を題材として使ったことによって、批判的な読み方の学習もできた。今後、新聞を通して人と人とのつながりを感じることができるような試みをしたい。